

YMCA NEWS

神戸青年 No.597
2009.9・10 Sep・Oct

発行所 日本YMCA同盟 東京都新宿区本塩町7
THE YMCA神戸版 発行人/水野 雄二 編集人/坂本 庸秀
神戸YMCA 〒650-0001 神戸市中央区加納町2-7-15
TEL.078-241-7201 FAX.078-241-7479
URL http://www.kobeymca.or.jp 印刷/わかばやし印刷



神戸YMCA 年間聖句 わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。(ヨハネによる福音書 13:34)

心身に障がいのある人たちのために
あなたの参加費が支援金となります



第12回神戸YMCAチャリティーラン

今年で12回目となる「神戸YMCAチャリティーラン」が11月3日
しあわせの村(神戸市北区)で開催されます。参加者、ボランティア合わせて
1000人を超す笑顔が溢れる注目のイベントにぜひご参加ください。

YMCAチャリティーランは1983年、チャック・ウィルソン氏(現大会委員長)の提唱により「日本の障がいのある子どもたちがYMCAのキャンプに参加できるように」支援する目的で始められ、現在では全国16のYMCAで開催されています。

神戸大会は1988年に第1回が開催され、今ではランナーと奉仕ボランティアが全国で最も多い大会になっています。神戸大会独自の「小学生駅伝」など、大会創設の趣旨を踏まえな



がら、共に走る楽しさ、誰かのために走る素晴らしさを味わうことができると、実行委員会を

中心に評価と工夫を重ねてきた結果といえます。

今年も大野勉実行委員長(神戸YMCA国際活動委員、神戸ポートワイズメンズクラブメンバー)を中心に、多くのボランティアの力を合わせて準備を進めています。駅伝、グループプランはもちろん、ゲームや模擬店や抽選会もあります。ランナーもボランティアも、そしてギャラリーも一緒に「笑顔溢れるチャリティーラン」をつくりあげたいと願っています。

とき:2009年11月3日(火・祝)
ところ:しあわせの村ジョギングコース
受付:午前9時より



【プログラム】

- A 小学生駅伝 4年・5年・6年生
男子4名もしくは女子4名で1チームのタイムレース
- B グループラン 原則5名以内のグループまたは家族で1チーム
2.0km 宣言タイムレース
- C 駅伝(一般) 4名1組 1名3.2km タイムレース
- D 駅伝(女子) 4名1組 1名3.2km タイムレース

【スタート】

- A 6年生=10:00 5年生=10:30 4年生=11:00
- B 11:40
- C・D 12:25

【参加費】

- A 1チーム 2,000円 B 1チーム 5,000円
- C・D 1チーム 10,000円

【協賛金】(任意)

- 企業・団体 1口 20,000円 個人 3,000円

【お問い合わせ・お申し込み】

神戸YMCAチャリティーラン事務局
078-241-7201 または各YMCAまで

6月29日、三田市長をはじめ、企画財政課、福祉推進課、こども課、生涯学習課、学校教育課、広報課の方々やYMCAスタッフ・ボランティアリーダー・リーダーOBとのディスカッションの機会をいただきました。まずYMCAが何をしている団体なのかを知りたいという声が多く、これまで三田市の中心でYMCAが何を大切に、どのように活動してきたかを話しました。改めて、近いようで遠い行政との距離を感じましたが、「ここ数年、三田YMCAが取り組んで

三田トピックス
「市長と本音でトーク」に参加して

本音でトークでは「今後の青少年活動の展望について」「子育て事業について」をテーマに、ボランティアをどう巻き込んでいくか、学校との連携をいかに強めていくか、また市民の心と身体の成長を支援していくための具体策などを話しました。市民にとっての行政でありたいという市の願いや、その中でYMCAが持つノウハウがどのように発揮できるかを語り合う中で、今後、可能になる協働事業についての具体案も出てきました。「子どもと若者のいのちが光り輝くように」を合言葉に、市や行政と若者をつなぐコーディネーターの役割をYMCAが全面的に担っていきけるよう、これからも行政との活発な情報交換をしていきたいと思

きたプログラムが、必ずしも積極的に関われたプログラムではなかったという事実を受け止め、これから地域に求められる本場に必要なたらプログラムを見出すよい機会になったと思います。



三田市役所に、ほどよい緊張感の中で、熱いトークが繰り広げられました。

宇宙の大スペクタクル「皆既日食」のダイヤモンドリングに日本中がくぎづけになっていた時、またまた大災害が山口県の特養老人ホームを飲み込んで、多くの死者行方不明者を出してしまいました。神様から与えられた環境を、人の力で変えた事から起こる人災の現場と、それを取り囲む大自然の美しい映像は余りにも対照的でした。8月6日広島平和記念式典での子ども代表による「平和への誓い」は、見事でした。「世界が平和になるために、私たちが出来ることはなんでしょう」と問いかけて、「けんかやいじめを見越さないうこと」という身近な事から始めて、「話し合いで争いを解決する」、「核兵器を放棄する」、「原発や戦争という「闇」から目をそむけることなく、しっかりと事実を見つめます。」と、現実をふまえながら、見事に方向を定めているのです。こんな素晴らしい世界の子どもたちが「国連子ども平和会議」を行えば、すぐにも平和が訪れるのではないのでしょうか。「隣人から自分たちを守る」ことだけを考えるのは、戦争へと向かう武器のいる道です。「自分たちの方から隣人を守ってあげよう」と考えるのは、平和へと向かう武器のいな



(鈴木 誠也)

富士登山キャンプ報告

報告者(引率・坂本 孝司)



富士山は、強く、美しく、とても大きな山ですが、とても厳しく、そして優しい山でした。

登山前のガイダンスでは、
1. 自分のことは自分です。
2. ネガティブワードは言わない。
3. 一歩一歩ゆつくり大切に、しっかりと呼吸をしながら歩く。という3つのことが強調されました。

標高1970mの須走五合目をスタートし、最初の目標は本7合目(標高3140m)の山小屋「見晴館」。長く歩き続けるためには「疲れの前に休む」「お腹がすく前に食べる」「のどが渇く前に飲む」「汗をかく前に脱ぐ」。寒くなる前に着る」ということが重要で、休憩時間も子どもたちのチャレンジが続きました。朝から歩き続け、見晴館にたどり着いたのは午後4時半すぎ。8時間弱歩き続けたことになりました。高度は既になつたり、吐き気をもよおす子もいました。



少しの仮眠のあと、悪天候の為に出発を1時間半遅らせて再スタート。午前4時44分、真っ赤なマグマのような太陽が少しずつ顔を見せると、子どもたちから歓声があがりました。「太陽ってすごいな」、リーダー。「午前7時50分、全員無事に富士山登頂に成功しました。」

子どもたちには、日本一の山の頂上に登りついたことに自信を持って欲しい。そして自分たちを支えてくれた人への感謝を忘れないで欲しい。登山の最初から最後まで随行してくれた東山荘の白鳥リーダーと阪田リーダー、一緒に登った仲間、山小屋で待っていてくれたおじさんとおばさん、あらゆるところで声をかけてくれた登山客の方々など、たくさんの方の支えがあつて登り切ることができたことを忘れないでいて欲しい。

富士山は、私たちに自身自身に対する自信と周りの人への感謝の心を教えてくれました。

水上安全プログラム報告

報告者: 坂本 孝司



この夏も神戸YMCAは、子どもたちの大切な命を守るため、水上安全のさまざまな活動を行いました。

主な内容は、小学校教職員およびPTA対象の心肺蘇生法・AED使用方法講習会(湊川多聞小、なぎさ小、筑紫が丘小、山の手小、120名)

名)、小学校での着衣泳指導(山の手小、湊川多聞小、なぎさ小、ゆりのき小、長尾小、900名)、YMCAプールでの着衣泳指導(地域オーブンプログラム、東町小学校、太山寺小学校、小寺小学校、180名)、YMCA作製ウォーターセーフティハンドブックの配布(神戸市西区、須磨区、垂水区、中央区、灘区、東灘区、三田市、西宮市の5年生全員、神戸YMCA日常クラス、地区体育館など、27000部)でした。

着衣泳指導では「自分の命は自分で守る」ことを前提に、水に落ちたらどうするか?を、実際に体験してもらい、1.泳がない。呼吸を確保して、助けを呼ぶ。2.友達に落ちてても、自分の手を出して助けない。3.子どもたちだけで川や海へ行かない、ということ伝えていきます。



100年前のクリスマス

賀川豊彦献身100年記念コラム



賀川は、生活に困っている人々の救済活動をしていた命の恩人「長尾牧師」の存在を常に心に留めていました。そして、1909年12月24日、神戸の貧しい人々が多く暮らす新川に移り住み、自ら救済活動を始めたのです。賀川が21歳の時でした。ここでは、人々にキリスト教を説きながら、「善飯屋」「天国屋」を開店するなどの活動を展開。その一方で、「もらい子殺し」という慣習に心を痛めた賀川は、子どもの権利を

主張し、保育事業などを展開していきます。これらのことは、1999年12月に、ユニセフ国連児童基金の世界児童白書にて、賀川豊彦が「子どもの最善の利益を守るリーダー」として、世界の52人の一人に選ばれていることにつながっていったのです。



感謝

【日本宝くじ協会より】

テントの「奇贈」

日本宝くじ協会様より、日本YMCA同盟を通じて、YMCA保育園ならびに神戸YMCAちとせ幼稚園、三田YMCAに集会用テントが奇贈されました。長年にわたり、子どもや若者の活動をお支えいただいていることに、心より感謝いたします。ヘルシーキッズデイや夏の園庭遊び、地域住民への園庭開放など、様々な機会を活用させていただきます。



【寄付金】

陳澤様

ウエルネスセンター三宮	☎078 (241) 7202
YMCAホームヘルパーの事務所	☎078 (241) 7237
ランゲージセンター	☎078 (241) 7204
専門学校	☎078 (241) 7203
西宮YMCA	☎0798 (35) 5987
三田センター	☎079 (559) 0075
余島野外活動センター	☎0879 (62) 2241
ウエルネスセンター学園都市	☎078 (793) 7401

KOBE
YMCA
GOAL 2011

Information

西神戸YMCA	☎078 (793) 7402
西神南センター	☎078 (993) 1560
須磨YMCA	☎078 (734) 0183
YMCA保育園	☎078 (794) 3901
西神戸YMCA保育園	☎078 (792) 1011
西宮YMCA保育園	☎0798 (35) 5992
YMCAちとせ幼稚園	☎078 (732) 3542
西神戸YMCA幼稚園	☎078 (997) 7705

Sports Club Information

★神戸YMCAバレーボールクラブ★

6/14(日)、「新日本スポーツ連盟兵庫」主催の男女混合バレーに参加し、優勝しました。

通常は、男子9人制、女子6人制で活動している社会人クラブとして対外試合に出場しています。今回は、レクリエーション目的で男女混合バレーに出場し優勝しました。次は、11月に埼玉で行われる全国大会に参加します。兵庫県代表として全国制覇を目指し、KOB E YMCAをアピールしたいと思います。そのためにも、遠征費用のご支援をいただきたいと思ひます。ご賛同いただける方はウエルネス三宮受付へ募金をお願いいたします。



★神戸YMCAヨットクラブ★

7/18(土)・19(日)、西宮沖で行われた「関西実業団ヨット選手権」に出場し、第2位入賞しました。この2日間で7レース行われ、3回は1位でゴールしたものの、1回のリコールがあり、わずかに1点差でスナイプ級個人2位となりました。



Photo Topics in Summer

余島家族キャンプ① 7/18～20

乗馬やカヌーなどの体験などを通し、ひとりひとりが時間や周りのことを考えながらも、親睦を深められた楽しい修学旅行になりました。

子どもたちは余島中を駆け回り、親御さんたちもカヌーに挑戦したり、グラウンドでボールを追いかけたりされていました。また、参加者全員で砂浜に大きなお城を作るなど、夏休みの始まりを楽しみました。

第22回 午餐会 7/4

約40名の方が参加。関西学院初等部の部長(校長)である磯貝曉成氏をお招きし、「日本の中等教育に欠落していたもの」というテーマでお話をいただきました。

沖縄スノーケリングツアー 7/17～20

沖縄県座間味島へ行きました。昼はマリンスポーツの海でスノーケリング、夜はサンセットクルーズ、食事は沖縄料理に舌鼓をうち、沖縄大満喫の4日間でした。

アクアティックキャンプ 8/9～12

疲れるのも忘れてイルカと泳ぎ、みんなの笑顔が弾けました。

English World 7/28～29

外国人の先生とリーダーと英語を使って2日間楽しく過ごしました!クラフトでは夏らしくサングラスを作ったよ!

*** Charity Events ***

●第21回チャリティゴルフ
日時：10月14日(水)
場所：ジャパンメモリアルゴルフクラブ (三木市吉川町)
参加費：20,000円

21回目のチャリティゴルフが会員活動委員会の実行委員会で開催されています。素晴らしい秋の一日をゴルフで楽しみませんか?

●第20回チャリティワイン
日時：11月13日(金)
場所：神戸ポートピアホテル

※参加費他詳細は現在調整中です。今回は、サイコー亭からポートピアホテルに場所を移し、第20回の記念の会を予定しています。ポートピアホテルチーフソムリエ岡本博文氏が選ぶワインを飲みながら、楽しいひと時を過ごします。収益金は全額「子ども奨学金」に捧げられます。

★★ 個人消息 ★★

■ご逝去■ 謹んでお悔やみ申し上げます

阿野麻里子さん(ウエルネスセンター学園都市)のお祖母様 5/13

末岡成夫様(中央地域委員)並びに
末岡祥弘様(大阪YMCA総主事)のご尊父様 6/16

遠藤浩さん(維持会員、元神戸YMCA職員)のご尊父 7/11